

光星、工大一 4強

青森県
春季高校野球

春季東北地区高校野球青森県大会
第6日は21日、八戸長根、青森県営
の2会場で準々決勝が行われた。昨
夏の甲子園に出場した八学光星は投
打がかみ合って東義に勝利。工大一
は工大二との兄弟校対決を制した。
昨秋の県王者・青森山田が弘前に勝
利。弘学聖愛は終盤に粘りを発揮し、

弘前東に逆転勝ちを取めた。

第7日の27日は青森県営球場で準
決勝2試合が行われ、それぞれの勝
者が春季東北大会(6月7〜11日・
岩手県)に出場する。(取材班)

27日の試合

▽準決勝

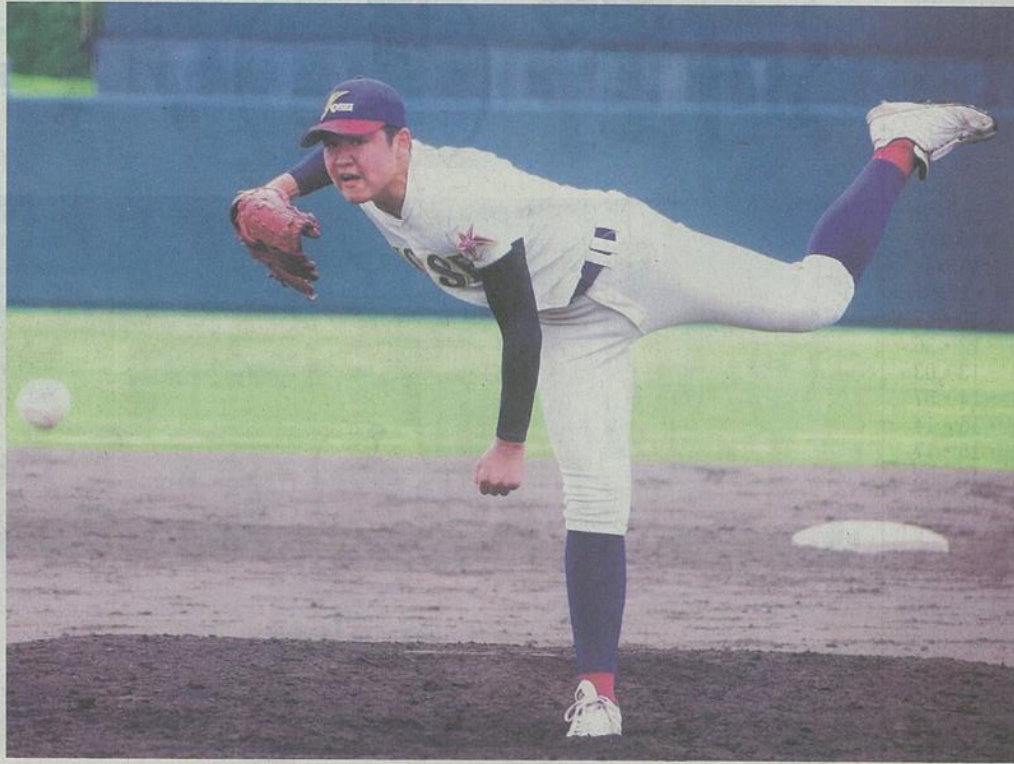
【青森県営】

青森山田―八学光星 10・00

工大一―弘学聖愛(12・30)

2年生左腕 投打で躍動

光星・洗平



6回9K零封、適時打2本

ヒーロー

7回コールドの完勝で
4強入りを決めた八学光
星。投打で躍動したのは

背番号11の2年生左腕・
洗平比呂だった。先発と
して試合をつくり、6回
を投げ1安打無失点、9
奪三振の力投。東義打線
を寄せ付けず、「投打が
かみ合った試合ができ

課題の制球面は5四死
球と難があったものの、
マウンドでは冷静さを保
った。浮き足立つ様子も
なく、出塁を許しても、
常時130㍎の直球を
武器に要所を三振で切り
抜けた。

守備も洗平をもり立て
た。五回2死一塁で中越
え一塁打を浴びたが、中
堅手と遊撃手の中継ブレ
ーで本塁タッチアウト。
「バックを信じてしっか
り腕を振れた」と洗平が
話すように、堅い守備で
好投を支えた。

洗平は9番打者として
攻撃でも活躍した。二回
2死一、一塁のチャンス
に、先制の適時二塁打。
五回2死一、二塁で迎え
た第3打席にも中前に運
び、2打点をマークし
た。

今大会の目標は「圧倒
的な強さで優勝する」こ
と。球場の注目を集めた
2年生は「(打線が)打
つて、投手がゼロで抑え
れば強敵でも勝てる。自
分はチームに流れを呼ぶ
投球がしたい」と熱く意
気込んだ。(千葉達也)

【八学光星―東義】6回
を投げ、1安打無失点、
9奪三振と好投した八学
光星の洗平比呂(長根